

## 委員会先進地視察報告書総括表

1 視察日	令和 6年 1月 16日 ~ 1月 17日	
2 視察地・項目	① 京都 府 福知山 (市) 町	
	② 大阪 府 八尾 (市) 町	
	③ 県 市・町	
	④ 県 市・町	
3 参加者	1. 水上 享 委員長	7. 田中 博文 委員
	2. 古閑森 秀幸 副委員長	8. 村上 秀明 委員
	3. 久保 和幸 委員	9. 友野 和成 書記
	4. 光山 千絵 委員	10.
	5. 高濱 広司 委員	11.
	6. 田中 秀和 委員	12.
4 視察経費	429,010 円 ※ ( 9 ) 人分	

# 委員会先進地視察報告書

報告者 久保 和幸

1 視察日	令和 6年 1月 16日	
2 視察地	京都府福知山市	
3 参加者	広報委員会	
	1. 水上 享 委員長	7. 高濱 広司 委員
	2. 古閑森 秀幸 副委員長	8. 久保 和幸 委員
	3. 村上 秀明 委員	9. 友野 和成 書記
	4. 光山 千絵 委員	10.
	5. 田中 秀和 委員	11.
	6. 田中 博文 委員	12.
4 視察項目	議会活性化の取組（議長の議会広報活動、議会報告会、出張委員会、行政視察研修会、高校生フレッシュ議会）」について	
5 視察先選定理由・目的	議会広報活動の先進的取組を調査研修し、今後の議会広報活動の充実を図るため先進地事例を視察するもの	
6 視察内容	<p>○京都市福知山市 人口 77,051 人 面積 552.54 km<sup>2</sup> 財政規模 527.9 億円</p> <p>1 議長の議会広報活動や議会報告会を実施されることとなった経緯 平成 23 年 4 月改選（新人が半数）後、議会基本条例を制定することとなり、①情報公開の推進、②市民参加の推進、③議会の機能強化（活性化）の 3 点を柱とした。（平成 25 年 4 月施行）＜P5＞ 議会基本条例第 26 条の規定により平成 25 年 5 月に議会改革検討会議を設置、情報公開を進めてきた。＜P6＞ 議長の議会広報活動としては、記者会見の実施、地元 FM 局の放送、また、地元高校を訪問しての高校生との懇談会を実施しているが、これは 18 才選挙権の導入時から実施しているもの。＜P11＞</p> <p>2 各取組の内容、開催時期 3 実施する際の事前準備、開催時の役割分担 4 開催の周知方法 (1) 議会報告会＜P13～19＞ 年に 2 回程度実施している。報告会では定例会、臨時議会の内容や委員会の活動を紹介や意見交換会（地域・団体）を実施しており、広報公聴委員会が主担当となり、前議員役割分担で運営している。市民への周知は議会だより、市議会ホームページ、報道への広報を利用 地域巡回型の議会報告会も平成 27 年度から実施している団体型と並行</p>	

	<p>して平成 27 年以降では、10 地域（会場）で開催、239 名の住民が参加している。対話形式を重視しグループ討議も行っている。</p> <p>(2) 出張委員会&lt;P20～23&gt;</p> <p>各委員会が出張委員会を開催し、市民の積極的な傍聴を募り、議会の情報発信と市民参加を促進するもので、案件の内容に応じて関係機関や関係者等からの説明、意見を求め、会議の充実を図る。</p> <p>内容は委員会の調査・研究テーマ、閉会中の調査事項及び所管事項に関する重要施策等で年 1 回以上開催</p> <p>(3) 行政視察研修報告会の実施&lt;P24&gt;</p> <p>議会改革の一環とし情報公開を進め市民へ開かれた議会を目指すため、行政視察の成果を市政への反映、政策提言へつなげるため実施するもので、年 2 回、開催時期は随時、これをライブ中継及び録画配信している。なお、報告後には参加市民、担当部署の意見交換会を実施している。</p> <p>周知方法は、前述と同じだが市内 LAN も活用</p> <p>(4) 高校生リフレッシュ議会&lt;P25&gt;</p> <p>平成 25 年 5 月 19 日に選挙権の年齢が 18 才に引き下げられた（平成 28 年 7 月参議院議員通常選挙から）ことに伴い実施したもので、府立大江高校の生徒 17 名が参加、その後、京都府教育委員会から大江高校は「法やルールに関する教育・研究」指定校とされ、議会傍聴や議員との懇談会を実施</p> <p>5 各取組を実施される中で工夫、見直しをされた点</p> <p>議会報告会を含め一方通行とならないような対話式、グループディスカッションを取り入れている。出張委員においてはテーマを絞るなどの工夫をしている。</p> <p>6 各取組に参加された方の声について</p> <p>市民参加、情報公開を出来る限りやっても市民は納得いかない点がある。今後の課題として取り組みたい。</p> <p>7 今後の展望や課題&lt;P44&gt;</p> <p>今後あるべき姿としては、情報公開としては手法や媒体の適時追加・改善など、市民参加の推進としては、双方向での議論ができる環境づくり、若年層に対するアプローチ、オンラインでの市民意見交換会、さらに議会の機能強化を進めていきたい。</p>
7 委員会所見	<p>福知山市の広報・情報公開は平成 23 年の選挙で新人議員が半数になったことなど議会改革の一つとして進められた経緯がある。</p> <p>出張委員会は、各種団体や地域の声を聞く重要な手段と思われますし、高校生リフレッシュ議会は「子ども議会」と類似しているものの高校生を対象としていることから市政への関心を持つだけでなく票育にも繋がるものと考えます。</p> <p>オンラインを活用したライブ配信（録画配信）は、若年層に対しての手段として効果的であると思います。</p> <p>情報公開は、議会活動の実態を市民に知ってもらうことだけではなく、公</p>

開と並行して市民の意見を聞く場を設けて施策提言へ繋げるものと思います。

なお、ライブ配信等は全員協議会室に撮影機材等を設置し、撮影、配信業務は事務局職員が担当しているとのことです。

# 委員会先進地視察報告書

報告者 高濱 広司

1 視察日	令和6年1月17日	
2 視察地	大阪府八尾市	
3 参加者	広報委員会	
	1. 水上 享 委員長	6. 光山 千絵 委員
	2. 古閑森 秀幸 副委員長	7. 久保 和幸 委員
	3. 村上 秀明 委員	8. 高濱 広司 委員
	4. 田中 秀和 委員	9. 友野 和成 書記
	5. 田中 博文 委員	10.
4 視察項目	議会への関心を高めるための取組	
5 視察先選定理由・目的	市議会×高校生プロジェクト等を調査するため	
6 視察内容	<p>八尾市は、人口約26万人の中核市である。面積が約42K㎡と狭いせい、議員定数は26人、平均年齢は50.7歳、男性18人・女性8人の構成である。</p> <p>1. 市議会×高校生プロジェクトについて 18歳からの選挙権となり主権者教育のため市内5つの高校と交流を考えた。議員を身近に感じてもらえるように、まず表現の場が少ない文科系のクラブとの交流を図ることとし、議会制度の説明を入れながら若い世代の声を聴き、生徒の写真を市議会だよりの表紙に載せた。八尾高校の推しである強豪野球部も掲載した。</p> <p>次にMeet&amp;Greet with八尾市議会として、「議会の広報について」、「議会の動画配信について」をテーマに座談会を実施した。その際、学校側の要望で生徒が話しやすいように模擬投票を行った。ここで一旦プロジェクトは終了したが、今後の活動は未定とのこと。その様子を撮影して編集した動画を見たが、高校生の評判は良かった。</p> <p>2. SNSの活用について 議会の見える化を促進し、より多くの市民に議会の活動を伝え興味を持っていただくために、高校生の意見をとりいれ速報性のあるXとフェイスブックを導入した。事務局職員が決裁をとりながら1週間毎にトピックをあげているとのこと。</p>	
7 委員会所見	<p>本市においては、主権者教育について理事者側は実施しているが議会は行っていない。これからは中高生の現場に出向いて議会を知ってもらう必要がある。今回視察した八尾市は、平成29年度から活動を実施しており非常に参考になった。</p> <p>市議会だよりの作成手法が興味を引いた。以前は業者に作成を委託していたそうだが、編集作業ソフトを購入し職員が作成することに改めた結果、編成のスピードがあがり各定例会の翌月20日には発行していた。その方が職員も負担が減ったそう。また、市政だよりと合作となっていたが、本市も検討しているかもしれない。</p> <p>SNSの活用については、議会DXの観点から重要なことである。ただ、本市は宮崎市議会が導入している「まちだん」を検討しているところである。</p> <p>事務局職員の人数が本市は少ないようである。広報誌の作成やSNSの導入にあたっては、少なくとも会計年度任用職員の増員が必要ではないか。</p>	